温室効果ガス排出削減
メンテナンスニュース
第131号
社内学習資料
2024年4月発行

私たちは緊急出動ゼロを目指しています！　　事業方針：丁寧な･熱心な作業も技術の一つです！

dsp処理槽は不要か・・・・。生ゴミはdspで粉砕し 下水道へ直接投入は「善か悪か？」

日本下水道新聞「エアレーション」：望月倫也論文、2005年10月25日掲載より抜粋

下水で分別と通常は言わないが、最近はし尿を再分離するとか、さらに尿を「し」から分離するとかの「分別前提の」技術論で争鳴状態。発生源で分別できればその後処理も容易で、汚泥の緑農地等へリサイクルにも最適だとの主張らしい。

台所の生ゴミを「直投型」ディスポーザーで粉砕し、下水にするのは、この分別とは全く逆の「混合」になるが、最近、国交省で採用のための「判断基準」（影響判定の考え方）が出され、推進の気配だ。

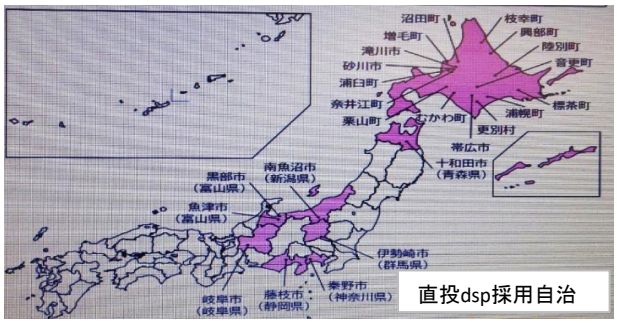
前記技術論では、混合すると処理がしづらくなると言うが、いずれも有機性汚濁に違いないし、処理・再利用できるように努力するのが処理技術者の仕事だ。そのような考えで、し尿を過去に下水にした。そして、生ゴミも下水に入れることになれば、生活の利便性がますます高まる。そのような社会の要請により、技術というものは発展するのだ。

し尿は明治以降処理対象となったが、家庭内環境向上のための水洗トイレから下水に混ぜて運ぶようになり、バキュームカーなどの臭害も生じなくなった。家庭排水と混合すれば、栄養分となり、処理のメリットにもなった。

生ゴミもディスポーザーで粉砕し、下水を利用して運べば台所ゴミ収集車での悪臭がなくなる。下水処理場での処理に難があると言われたが、国交省の「影響判定の考え方」では、そのほとんどが容易に沈殿処理できるとある。汚泥が増えてやっかいと思ったら、緑農地利用の場合は、利用可能量が増える以外に、増量材として肥料性状向上に資する場合もあり得る。

合流管は一本で、以上に加えて雨水をも運ぶと考えると、超高度利用のパイプラインだ。合流改善事業で、滞水池などの追加が余儀なくされているが、大都市では最初から、改善（付加）施設付きの合流管を計画的に採用する考えはないのだろうか。それでも、雨水、汚水管の二セット配置するより合理的だと考える。おまけに、初期雨水処理（ノンポイントソース汚濁）も最終処理場で可能となる。

生ゴミの回収が無くなれば、街から悪戯カラスが消えそうです！



直投dsp採用自治

水物語　No121　滝廉太郎「花」は、日本を代表する合唱曲です！

① ♪ 春のうららの　隅田川
のぼりくだりの　船人が
櫂のしづくも　花と散る
ながめを何に　たとうべき ♪

② ♪ 見ずやあけぼの　露あびて
われにもの言う　桜木を
見ずや夕暮れ　手をのべて
われさしまねく　青柳を ♪

③ ♪ にしきおりなす　長堤に
暮るればのぼる　おぼろ月
げに一刻も　千金の
ながめを何に　たとうべき ♪

この歌ができたのは、明治33年（1900年）です。作詞は東京音楽学校教師武島羽衣（28歳）、作曲は同校の助教授の滝廉太郎（21歳）です。こんな若いお二人が作ったとは思えないほど、格調の高い楽曲と言われています。いつの間にか誰もが口ずさんでしまいます。今もなお、唱歌として親しみ歌い継がれている所以です。「うらら」とは「のどかな様」だそうです。

滝廉太郎作曲の代表曲は「花」のほかに「荒城の月」「箱根八里」で音楽の授業で歌った人も多いでしょう。滝が才能を開花させたのは、子供のころから音楽に触れる環境に育ったからでしょうか。父は大久保利通のもとで内務官僚として仕えていたため、西洋文化のたくさんある街、横浜に住んでいました。2人の姉はバイオリンやアコーデオンを習っており、いくら音楽の才能があっても、明治時代に楽器に触れることは容易いことではありません。家庭環境にも恵まれて・・・・。

7歳の頃に富山に住みます。そこで冬の寒さから「雪」を月夜の雁から「雁」を。そして滝の代表曲である「荒城の月」は大分県竹田市にある岡城址から生まれました。滝は、結核を患い1903年23才の若さでこの世を去りました。

特許　油脂ゼロポンプ槽推進中！
dsp･HVシステム槽推進中！　クリーンテックサービス東京